

「インフラ施設の老朽化について」

宇土小学校 6年 角田 賢人

みなさんは、地域のインフラ施設が、大問題になっていることを知っていますか。

まず、インフラとは、私たちが毎日使っている道路や橋、水道などのことです。これが今、とても大変なことになっています。

私が調べてみると、2030年3月で54%、2040年で30%のインフラ施設が築50年を迎えるのだそうです。また、トンネルにおいては、約半分もの2040年で、なんと、築50年を迎えるのだそうです。それによって、だんだんと劣化が進み、トンネルでの事故が起きやすくなっています。

私がこのデータを知ったとき、何気なく使っている橋やトンネルが、実はとても危険な状態かもしれないのだと感じ、とても怖くなりました。

では、どうしてこのような状態になってしまったのでしょうか。

原因の一つとして、点検のための予算が不足しているということが挙げられます。インフラの管理は、65%が市区町村、19%が都道府県、16%は、会社や国土交通省が担当しています。地方では過剰化が進み、十分な税収を確保できていない、もし十分な税収があっても、点検するトンネルの数が多く点検に使えるお金が十分に足りていないというのが、今の現状です。

また、点検に必要な人手が足りていないということも原因の一つです。つまり、点検をして直したくても、働く人が足りないのです。人が足りなくて十分に手が回っていない地域は、日本全体の49%以上にのぼります。このことから、最悪の場合、橋の下を歩いている人や車に乗っている人が巻き込まれる事故が起こるかもしれません。

また、災害が起こってしまったとき、二次災害の危険があり、すぐに復旧できなくなり、多くの命が失われる可能性があります。実際、最近は地震の件数が多くなっています。いつこわれてもおかしくはないインフラの施設がたくさんあります。この状態をどうにか私たちが協力して止めなければなりません。

私たちにできることはないのでしょうか。

私は、小さいことでも、自ら行動することでこの状態を変えることができると思い

ます。

例えば、道路がヒビわれているところを大人に知らせることができます。「これくらい大丈夫かな。」ではなく、少しの異変が将来に大きく関わってきます。いつも見ている私たち市民だからこそできる「気づく」ということ。その気づきが命を守ることにつながります。ほかにも私たちの地域を守るための行動として主に三つあります。

一つ目は、国土交通省の道路緊急ダイヤル（＃9910）に電話することです。すると、GPS で位置を伝えることで、かけつけてくれます。早く治してほしい場合に活用しましょう。

二つ目は、宇土市の取り組みで宇土市長への直行便です。方法は、電子メール、専用封筒、通常の郵送の方法があります。

三つ目も宇土市の取り組みで、市長と顔を合わせてじっくり相談できる「市長と気軽にランチトーク」です。

もし、異変に気付いた際は、このような取り組みを活用し、伝えることができます。私たち市民と市役所が協力していく必要があると考えています。

私たちが、安全な未来の日本、地域を作っていくために、このインフラ施設の老朽化についての危険性をみんなで理解し、伝えていくことが大切です。

「気づくこと、伝えること、行動すること。」が多くの命を守ります。みんなでこの宇土市、日本を守っていきましょう。